

憲法OBA MJ 連載の現在いま

《憲法問題特別委員会だより》

第69回「無音のレクイエム」×憲法カフェ編

奥井久美子(66期)

2016年6月、憲法ミュージカルが大阪で5年ぶりに復活した。その演目が「無音のレクイエム」である。

大阪憲法ミュージカルは、大阪の弁護士らが共同代表や呼びかけ人となり、たくさんの市民の方々に、出演者やスタッフ、観客としてかかわっていただく中で、普段身近に感じる事のない憲法に触れ、考えるきっかけをもってもらいたいという思いで企画された。4作目となる「無音のレクイエム」は、戦前、戦中の大阪千日前を舞台にした作品で、無声映画に夢を描く若者3人が、軍国主義の波が押し寄せる戦時下を生き抜いていく人間模様を通じて、平和であることの大切さを訴えていく内容となっている。

出演者や実行委員のスタッフは、練習日だけでなく、実行委員会として「憲法カフェ」や、大阪空襲訴訟の原告・原告代理人らの講演、谷口真由美准教授の講演、ジャーナリスト西谷文和氏の講演等の企画への参加を通じて、憲法や作品への理解を深めることができるような工夫がされていた。

「憲法カフェ」は、明日の自由を守る若手弁護士の会(通称あすわか)が主催しているもので、紙芝居や憲法クイズなどを使って憲法が私たちの生活に深く関係していることを分かりやすく伝えていくための気軽な憲法学習会である。2016年11月の日本国憲法70周年を機に大阪支部が設立された。

憲法ミュージカルも憲法カフェも、市民の方々に憲法のことを分かりやすく伝えたい、憲法を身近に感じて欲しいという思いは一緒である。

そこで、2017年1月21日(土)、「無音のレクイエム」と「憲法カフェ」のコラボ企画として、第1部で「無音のレクイエム」のダイジェスト映像を放映し、第2部で各シーンと憲法とのかかわりについて解説する憲法カフェを行い、第3部ではワールドカフェという形

で参加者にそれぞれテーブルを移動しながらアウトプットの議論をしてもらうという企画を開催することとなった。

筆者は、「無音のレクイエム」にも出演させて頂き、あすわか大阪にも所属しているというご縁があって第2部を担当させて頂いた。

筆者自身、実際に「無音のレクイエム」という舞台上で、息子を万歳三唱で送り出す母親に「ほんまに面白かったら笑うたらええ、悲しかったら泣いたらええやん!」と訴える三智子の叫びを耳にした時、笑うことを禁じられ、泣くことを禁じられる社会がどのようなものなのかということを感じてきたように思う。これは筆者にとってとても貴重な体験となった。

改めて、現代に目を向けた時、「無音のレクイエム」の時代は、昔の歴史上の事に過ぎないとは安心してられないのではないかという危惧が、劇中での三智子の「いつまた戻るかもわからへん」という言葉となって耳の奥に残る。そして、劇中歌の「この時代に生まれて 声を上げずにいるのなら この時代に生まれた子供たちに何を誇るのか 国が時代をつくるなら国をつくるのは人のはず 青い空にも 暗い闇にも人は時代を変えられる」(抜粋「この時代に生まれて」作詞・小鉢誠治)という歌詞が、今声を上げなくていいのかと胸に迫る。

「無音のレクイエム」は、大変好評を頂き、大阪弁護士会の後援を得て、2017年10月6日～9日(全8公演予定)、OBP円形ホールにて再演することとなった。今回の憲法カフェとのコラボをきっかけにあすわか大阪も協賛する。現在出演者募集中。去年見逃した方はもちろん、去年観た方も、是非是非、出演・観劇して頂きたい。(問合せ先:大阪憲法ミュージカル事務局 090-8933-0916)